

八代市鏡町鏡ヶ池出土の比叡師団宮原部隊の薬筒について

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク 高谷和生

1 昭和二十年（1945）年、熊本のおかれた状況

（1）九州及び熊本の防衛等

1945（昭和二十年）になると戦局の悪化にともない、大本営では内地防衛軍の下で軍改編を急ぎ、二月にはこれまでの西部軍に代わり九州地区には「第十六方面軍」が編成され、航空総軍も創設させた。そして九州では本軍が来るべき本土決戦での作戦区分「決六（けつろくごう）号作戦」の対応とされた。

この時期、連合国軍においては、沖縄侵攻作戦「アイスバーク作戦」の終焉を見て、首都東京への進行作戦「コロネット作戦」及び南九州への進行作戦「オリンピック作戦」（昭和20年11月1日発動予定）に向け着々と準備を進めた。

一方第十六方面軍では、連合国軍上陸の可能性の最も高い地区を南九州と特定し、宮崎平野（い号）、志布志湾（ろ号）、薩摩半島（は号）の各地区防衛を最優先として、臨時要塞や洞窟陣地、水上特攻基地などが数多く構築されていた。

そのようななか熊本県では、人吉を含めた「南九州決戦時推進地域での決戦準備」のほか、天草を作戦方面とした「陸作戦第三号（中九州作戦）へ号作戦」の準備も併行してなされた。

そこで熊本県では、「第十六方面軍作戦図・熊本県関係分」にあるように「肥後集団」を結成させ、熊本師管区部隊、第二一六師団（比叡部隊）、独立混成第一二六旅団（敏忠部隊）がその傘下におかれた。その内容が防衛研究所戦史部『熊本師管区戦史資料』「肥後集団作戦計画」に記されているのでその一部を紹介する。

第一 作戦方針

一、集団ハ有力ナル一部ヲ似テ天草郡要域ニ主カヲ似テ、熊本県本土要域ニ夫テ頑固ナル陣地ヲ占領シ海空ヨリ進行スル敵ニ対シ方面軍兵站基盤ヲ確保ス。

第二 指導要領

二、有明兵団ヲ似テ天草郡ノ作戦ニ専念シ、特ニ早崎海峡及長島海峡ヲ堅固ニ拒止セシメ、師管区部隊主カヲ似テ緑川以北島原海湾沿岸要域各一部ヲ似テ八代湾沿岸、立野附近及び封空挺要地ヲ占領セシメ海空ヨリナル敵ノ進攻ヲ破壊セシム。

三、早崎海峡ヨリ島原湾海ニ強行進攻スル敵ニ対シテハ、所在海軍部隊及び陸軍海上特攻隊ト密ニ協同シ其ノ企図ヲ破壊セシム。

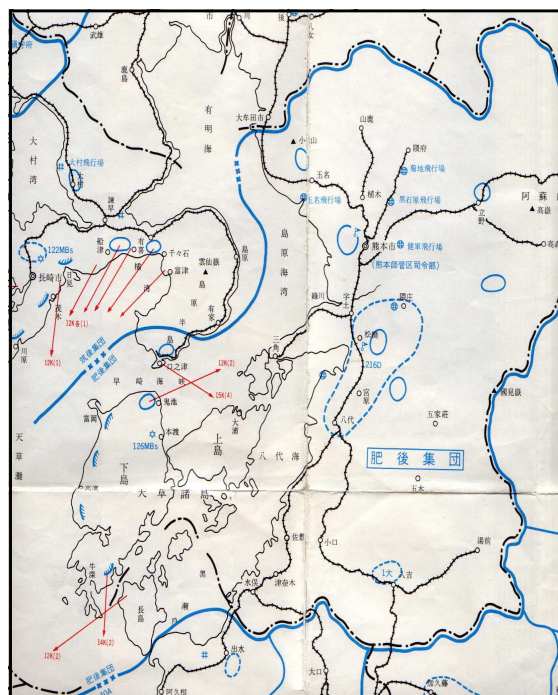
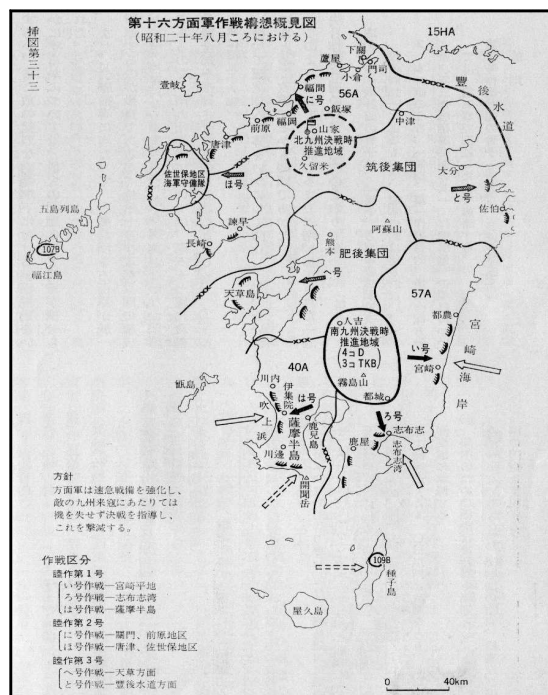


図1 第十六方面軍作戦構想図 『戦史叢書 本土決戦準備 九州の準備』より

図2 第十六方面軍作戦図での熊本県関係分の拡大図

当地は「216D」の標記 『戦史叢書 本土決戦準備 九州の準備』より

(2) 第二百十六師団（比叡部隊）について

1945（昭和二十）年4月に京都で編制された、本土決戦部隊である。通称は「比叡師団・比叡部隊」と称して松橋に部隊本部・部隊が置かれ、宮原部隊・八代部隊で構成されていた。詳細は、部隊編制・部隊史等を現在調査中である。



写真1 1948年の当地利用状況 国土地理院空撮資料

当時の鏡国民学校には「本土防衛の比叡師団・宮原部隊」が駐屯。右上には「鏡ヶ池」が所在。○印で標記

写真2 鏡国民学校講堂前での担任出征時の集合写真

高木晁念さん提供

(3) 比叡師団・宮原部隊に関する地元証言等

□島田幹雄さん（当時国民学校2年生）証言

戦後、学校では捕縛された「米兵のこと」、比叡部隊による「池への機体投棄のこと」について、教師から児童全員へのかん口令がしかれ、皆が口を閉じた。

□野島軍司さん（当時旧八代中学校1年生）証言

落ちる前に、八代の宮地小学校の陸軍高射砲陣地から2～3発上空に射撃があり「ボン、ボン」と音がし、上空に煙が上がったのが見えた。

米軍捕虜が旧青年学校近くに連れてこられたとの事で、友だちと数人で見に行った。縄をまかれた米兵は榎の木に縛られてえおり、沢山の群衆に囲まれた額から血を流していた。米兵には石が投げられたり、棒で叩かれたしており、口々に「兄弟のかたき、親のかたき」という声が聞こえ、だんだんとエスカレートしてきたので「あまり酷くならなけえればいいが」と危惧していた。

そのなかで陸軍将校（鏡国民学校に駐屯していた比叡部隊か・軍刀を持つ40代後半の年齢か）が、群衆を制止し「ヤメロ、静かにしろ。この場合は自分まかせてほしい」と言い、群衆に解散を命じた。自分もその後家に帰った。

□藤山俊一さん（当時国民学校2年生）

鏡が池の直ぐ横に自宅があり、比叡部隊駐屯時には、講堂に芋を干した食料が山積みされていたが、いつも兵隊は腹をすかしており、父親の言付けで魚や野菜を部隊に届けていた。

連行された米兵は、一時学校玄関前の奉安殿に縄で縛られていた。

2 収集された砲弾薬莢について

(1) 証言

□横井 稔さん 当時国民学校3年生

戦後、土木業「横井組」を営んでおり、鏡ヶ池前の沢田さん宅（現在は公園拡張で移転）前の池を、朝鮮特需以降（1950年代前半か）の時期に、池の西側を重機による土砂掘削作業で、別添写真の様な「陸軍薬莢等7点」を拾い上げた。

(2) 薬莢の概要等

□内径15cmは「十五糎榴弾砲弾」の「薬筒」長短二種類と「薬莢蓋」が4点、内径7cmはロシア軍の「3インチ野砲弾」の「薬筒」が2点である。

□「薬筒（一般的には薬莢）」頭部面には、昭和16年製を示す「昭」「十六（上下でのレイアウト）」や大砲を交差させた「砲兵工廠スタンプ印」他のヘッドスタンプを確認できた。

□駐屯した比叡部隊が使用したと思われる「薬莢転用灰皿」には「日独祈念 敷島の大和心 火の用心 富士山と帆掛け舟の絵」が刻印されている。

□内径15cm薬筒（全長16cm）の底部スタンプは、昭和16年製を示す「昭」「十六（上下でのレイアウト）」、製造月「12」や大砲を交差させた「砲兵工廠スタンプ印」「菱形内部にS（工廠の工場銘か）」「小」「F」等が確認できた。

□内径7cm薬筒（全長尾38cm）の底部スタンプには、製造年を示す「1903」や「26」、キリル文字の2文字が確認された。本資料は、戦利品として物だけの「伝世品」もしくは、捕獲兵器としての「ロシア製3インチ野砲」の「準制式兵器としての再利用」が想定できる。



写真3 横井さん採集の薬筒等7点
写真5 横井稔さんと庭先の薬筒

写真4 灰皿転用の薬筒（7cm薬筒）

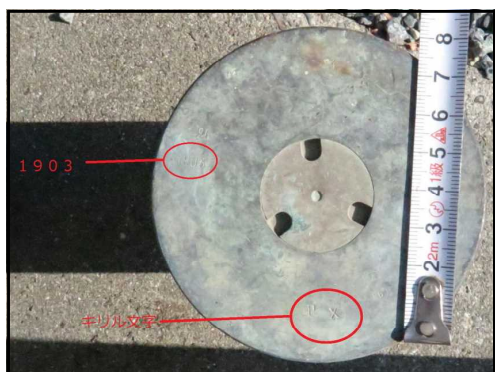


写真6 内径15cm薬筒の底部と刻印
写真8 内径7cm薬筒の底部と刻印

写真7 九六式十五糎榴弾砲 靖国神社蔵
写真9 ロシア製3インチ野砲 秩父御嶽神社奉納



連絡先
□くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク 代表 高谷 和生
〒865-0061 熊本県玉名市立願寺126-5
個人携帯 090-1513-5528
Eメール takayanagi912@yahoo.co.jp
HP URL <http://www.kumamoto-senseki.net/>



くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク